

# 令和2年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（東部地区） 次第

日 時 令和3年2月1日（月） 午前10時～11時30分

開催方法 オンライン会議

## 次 第

1 あいさつ

2 議 事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(2) 各管理者の土砂管理への取組

- ・ 岩美海岸(陸上地区)における海岸侵食対策の効果検証について  
(鳥取県土整備事務所計画調査課)

(3) その他

令和2年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議(東部地区) 出席者名簿

R2年度		役 職	氏 名	随 行 者
構 成 員	鳥取大学大学院工学研究科	教 授	黒岩 正光	
	環境省近畿地方環境事務所蒲富自然保護官事務所		欠席	
	国土交通省鳥取河川国道事務所	河川管理課長	実近 末生	
	鳥取海上保安署		欠席	
	鳥取市経済観光部 観光・ジオパーク推進課	主 幹	谷島 考子	
	鳥取市農林水産部林務水産課	課 長	山口 真二	
	鳥取市都市整備部都市環境課	次長兼課長	稲干 典史	
	岩美町産業建設課		欠席	
	鳥取県観光交流局観光戦略課		欠席	
	鳥取県生活環境部緑豊かな自然課	課長補佐	浦田 悦雄	
	鳥取県農林水産部水産振興局水産課		欠席	
	鳥取県県土整備部空港港湾課	課長補佐	瀬村 正樹	
	鳥取県県土整備部鳥取港湾事務所	課長補佐	松本 隆	
	鳥取県県土整備部鳥取県土整備事務所	計画調査課 課長補佐	大坪 亮太	計画調査課 係長 平井 康夫 河川砂防課 土木技師 田邊 大輔

事務局

鳥取県県土整備部河川課

## 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（東部地区） 運営方針

## （名称）

本会議は、鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（東部地区）（以下「調整会議」）と称する。

## （目的）

調整会議は、陸上海岸から長和瀬漁港の区間において、土砂の流れの連続性の確保及び回復を目指し、関係機関が連携しながら土砂管理等を促進するため、その方策の検討及び調整を図ることを目的とする。

## （調整内容）

調整会議は、上記の目的を達成するため、次に掲げる事項について協議調整を行う。

- （1） 関係機関の連絡調整に関する事項
- （2） 土砂管理の効果検証及び事業調整に関する事項
- （3） その他土砂管理に関して必要な事項

## （会議の構成）

調整会議は、別表に掲げる構成員によるものとする。

## （会議の招集）

調整会議は、議事内容を整理した上で事務局が招集することとし、年1～2回の開催を行うこととする。

## （会議の議事進行）

調整会議の議事進行は、事務局において行い、会議を総括するものとする。

## （事務局）

調整会議の事務を処理するため、鳥取県県土整備部河川課に事務局を置く。

構 成 員

鳥取大学大学院工学研究科教授 黒岩 正光  
環境省近畿地方環境事務所浦富自然保護官事務所  
国土交通省鳥取河川国道事務所  
鳥取海上保安署  
鳥取市経済観光部鳥取砂丘・ジオパーク推進課  
鳥取市農林水産部林務水産課  
鳥取市都市整備部都市環境課  
岩美町産業建設課  
鳥取県観光交流局観光戦略課  
鳥取県生活環境部砂丘事務所  
鳥取県農林水産部水産振興局水産課  
鳥取県県土整備部空港港湾課  
鳥取県県土整備部鳥取港湾事務所  
鳥取県県土整備部鳥取県土整備事務所

(事務局)

鳥取県県土整備部河川課

# 令和元年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（東部地区） 議事概要

日 時：令和元年11月25日（月）午前10時から12時00分  
場 所：鳥取県庁第2庁舎4階33会議室

## 1 議事

### （1）サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針を海岸ごとに説明。

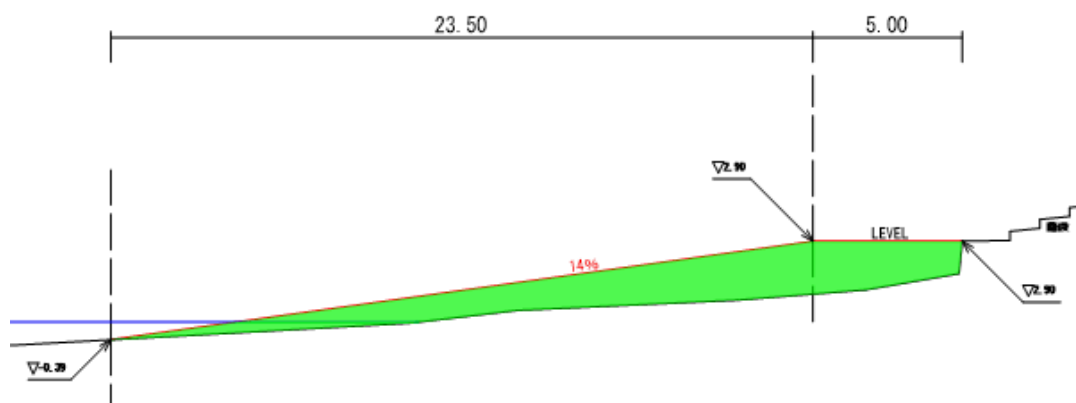
[対象海岸：岩美海岸（陸上地区、浦富地区）、千代川右岸、千代川左岸、気高海岸]

<主な意見等>

意見) 岩美海岸浦富地区の人工リーフ西側背後について、夏季においても利用に適した浜幅の目安40mを確保できていない。サンドリサイクル実施時の浜幅の管理をどのようにしていたか確認すること。

確認状況： サンドリサイクル（養浜）実施時において、浜幅は管理基準として設定されていないが、浦富地区の特性（利用実態）を考慮しながら養浜が実施されていることを確認した。

(参考) 工事の出来高管理図



※実際に管理しているのは海岸利用の実態に応じた緩傾斜護岸から5mの水平養浜部分のみ。

水平養浜部分から汀線までは緩傾斜で養浜する。

※発注段階でも汀線の位置は指定しているが、サンドリサイクル量の実績に合わせて汀線の位置は変わる。

※年によっては、運搬・養浜した砂が、施工中に波浪で流出したこともある。

意見) 福部海岸湯山地区の鳥取砂丘海水浴場の侵食が激しく、毎年海の家の開設に苦勞している。現在は海水浴場への直接の養浜は行っておらず、鳥取砂丘側に養浜しているようだが、沿岸漂砂の流れを考慮の上、海水浴シーズンの浜幅ができるだけ確保できるよう検討してほしい。

対応状況： これまでの効果検証により、サンドリサイクルによる一定の効果が確認できているが、今後も対策について検討していく必要がある。現在、鳥取県土整備事務所が福部海岸（湯山地区）の効果検証を実施しているところであり、その結果をもとに今後の当会議で議論していきたい。

### （2）各管理者の土砂管理への取組

#### ■ 千代川流域における流砂系土砂動態の把握に関する検討（鳥取河川国道事務所）

・千代川流域の流砂系土砂動態及び海浜形成に寄与する流出土砂量の把握に関する検討について、

鳥取大学と共同研究を実施中である。

- ・河床の長期変遷について、下流域は潮止堰設置以前は交互砂州が発達していたが現在は見られない。中流域については、1960年代までは複列砂州が発達していたが、現在は植生の繁茂し砂州及び滞筋の固定化が生じている。
- ・1987年～2005年を対象に算定されている流出土砂量は約4万m<sup>3</sup>/年であるが、少し過大ではないかとの意見を鳥取大学よりいただいている。
- ・今後は、各粒径別の土砂通過量を推定し、それをもとにして土砂変化量の解析を進めていく。

<主な意見等>

意見) 流出土砂量の算定について、基準年をいつにするかによって土砂量が変わってくる。過去と比較して現在の流出土砂量がどのように変わっているかを把握するための検討ができればよいと考える。

## ■ 岩美海岸（浦富地区）における浜崖後退抑止工（サンドバック工）試験工事について

（鳥取県土整備事務所計画調査課）

- ・浦富地区において、H30年度秋にサンドバックの試験施工を実施。
- ・サンドバックL=60m（西側40m、東側20m）設置高を変えて実施。
- ・試験施工後の状況としては、昨年度の冬季風浪は比較的穏やかであったこともあるが、サンドバックに変状等は見られず、また背後に浜崖が進行せず背後の養浜砂の流出も確認されなかったため、一定の浜崖後退抑止効果が確認できた。

<主な意見等>

質問) 今回試験施工ということであるが、今後本施工に向かっていくという考えでよいか。

- 浦富地区においては、現在人工リーフの整備を進めているところであり、サンドバックについては人工リーフの完成後、効果検証を行った後に展開していきたいと考えている。